

# ただそこに在るだけで、表現者であるという境地へ至る、凄まじいまでの道のり。

東京パビロン企画

『BOTTOMLESS / 井戸に記憶される月』

2005.11/8・11/9 於: pit 北/区域

その刻私は死んでいて、砂利の上をタイヤがゆっくりに進んでいる音やスーパーの買い物袋をガサガサと取り出す音、車のドアをパタンと閉める音などを、風の音とともに聴いていた……。そう言いたくなるように、それらの音は時が経つにつれてより鮮やかに、あたかも生前の記憶のように、私の脳裏に蘇ってくる……。首くり拷象のアクション（首吊りのパフォーマンス）に彼の庭劇場で初めて立ち会って、私の記憶の中で日々更新されていく、その周囲の風景の不思議な印象は、首くり拷象その人とその行為をすべて消し去り、私が生きていた時のかけがえのない生活の音を送り届けてくれると、言えはる程度は何かが伝わるだろうか。

私個人の経験においては、首くり拷象のアクションは（彼の家の庭すなわち）屋外においては、世界を映す鏡となり、劇場においては風景がいったん遮断される為に、観る者の無意識を映す鏡となって、凄まじい人間の実実に立ち会うことになるのだ。しかしこのことは彼に何もしないことを強制する無慈悲な行為でもあると云えて、彼は密かに救済を求めるように表現に倦れていたように思う。そしてこの倦れの実行が生き残るための手立てであると云えて、しかしこれは一生かかるかも知れないと思ひ、いや不可能ではとも考え、彼のアクションとのコラボレーションはいつのまにか封印していたようである。ところがこの怠惰な思考が鉄槌を受けることになる。なんと彼が表現の領

りも遠く、人間が存在することの幸福な諦観に満ちて、佇んでいる……。これが宗教画を観ているようだったとか、古代ギリシャの画を連想させられたというアンケートにも伺えて、しかしここで、観ている者が観ているそのことから連想に誘われることには理由があると云えて、二人は表現という領野に降り立った優しい存在者なのだ。いかなる表現からも解放されている表現者であり、ただ在ることのみで許されている表現者と云えるだろう。あたかも私たちは生きて在ることの厳しさと幸福感に浸りそれ以上のものは望まなかった、そういう空気に支配されていたのではなからうか。

しかしそれでも表現への欲求の残滓が、おそろしく宗教画への連想をしようとするのだ。そのかすかな思ひも立ち消えて、なお二人の閑かな交歓は続き、やがて首くり拷象は表現の迷いの領域から一時逃れて、ただ一途に生きようとする生者の領域に吊り下がる。しかしその時不思議なことが起こっていたのだ。首を吊ってもなお（あれだけ表現というものを拒絶していた彼の身体が）表現体として豊かにこの空間を呼吸し川村浪子の表現体と呼び合っていた。この時はどうしてこんなことが起こるのかということにさ思い至らなかった。終演後彼の意識的な告白の言葉で納得したのである。「これは岡村さんには、言っとくが……」と前置きして「或るとき、首吊りもフィクション（……）」

だと思った。と語った……。謎が解けた。彼があんなにも倦れていた表現者に見事転身したその分けが解った。フィクションだと悟った時、首吊りは彼にとって生き残るための最後の手立てだったという真実なる息



撮影（2点とも）/阿波根 治（スタッフ・テス）

苦しい地獄から解放された瞬間だったのだ。いかに彼にとって首吊りという行為が日々の孤独な日常の中に埋没してしまおうと、痛みと悲惨に自分を追い込む演出をいつのまにかしていようと、真実なる生々しい行為には変わりなかったのだ。これ以来彼にとって首吊りというアクションは彼が意識してもしくなくてもフィクションであり、表現というものの根底に触れる行為となったのだ。その軀はフィクションであるという覚醒を経験したからこそ、おそらく彼自身の思惑さえ超えて、どこまでも明るく、生きて在るといった肯定的な諦観に満たされている。このとき我々はあらかじめ、自身の重さから、あるいは見るに耐えない人間の素顔から解放されているのだ。ここから彼という表現体は歩き

始め、いかなる悲惨をも受容できる危険に満ちた舞台への期待を孕んでいるのではなからうか……。

実は以上のことも抜粋であって、また共演者川村浪子、音の中村としまる、映像のヒグマ春夫に関しても言及しなければと思うのだがとても紙面が足りないのので別の機会にということになるが、とくに川村浪子と首くり拷象との出会いは、稀にみる必然と言うか、互いが互いにとって見事な転身のキッカケになったということ、あの舞台上における二人の存在そのものの交感感には舞台におけるあるべき姿だとはいっても、かつて観たことがないのでこれを奇跡と呼んでも差し支えないのではないかと。奇跡ということをそんなに持ち上げているわけではないが、今回の舞台はそう名辞したくなる何かがあった。（岡村洋次郎/東京パビロン）



の領域に降り立ったのだ。素足で何も持たないで、舞台上で、川村浪子（ダンサー）という存在と呼びしなから、明るく、いかなるニヒリズムか

## INTOWN

### 雪景色の情念

● 11月某日、中野のなかのゼロホールへ、アニメーションの自主上映団体「アニメーション80」の上映会に出かける。テレビや映画で見られるような商業アニメーションではなく、あくまでも個人レベルで作られるアニメーションである。1980年に発足したこの団体は、かつてはフィルムで上映を行っていたという。最近では当然、ビデオ上映である。メインプログラムは4つの部門があった。「会員作品」部門は、「アニメーション80」の会員によるプログラムで、CGを用いて軽快な動きを表現する<中西義久>、マンガをめぐるように楽しむことができる<KTOONZ>の作品が見られた。「ゲスト作品」部門では、手描きのイラストが動くような感じの<とと>が楽しめた。また<田端志津子>の『停止円』(写真)



停止円

っていく。ズームになったり、円の内と外が交互になったり、と変わり行く公園の景色を写したのが楽しめた。「公募作品」部門では、テーマは決められておらず、CGや手描きで多くのアニメーションが上映された。そして、「1 minute animation」部門では、1分であること、黒い丸で始まり終わること、というルールで作られた作品が世界各国から集まった。海外からの作品はほとんどCGで制作されており、ゲームの1コマのようなもの、コマーシャルのようなものなど、たった1分なのに様々な種類の作品があり、人間の才能の豊かさを楽しむことが出来た。日本人ではくにおおぞのバラバラマンガの原理を用いたラクガキアニメが目を引いた。「モノが動く」というアニメーションの精神は、これからも引き継がれていくのだろう。そして、絵画や映画とはまた違った表現を行う各作家の情熱、姿勢に私は感動した。（藤田千彩）11月6日(日) 20日(日) なかのZERO 視聴覚ホール

● 11月某日、タイニエアリスにほどちかい、新宿2丁目にある写真家自らが運営しているギャラリー、photographer's galleryへ「横湯久美 雪ダルマ」展を見に行く。横湯が撮影しているのは、雪 亡くなった祖母の思い出が残る札幌の街に積もっていく雪を撮影している。私はこんなに積もった雪の中で生活をした



横湯

ことがないので、表面のきれいな、しかしどっしりと地面を覆う雪と、周囲の暗闇に驚く。ほとんどの写真が昼間ではなく、夕方以降の暗い時間に撮られたもののように感じた。しーん、という音のない世界、もしかするとシンシンと雪が降って積もる音しかしないような世界が広がっているように感じた。そこで横湯は何を想うのだろう、と想像しただけで、また、祖母の思い出や存在を再確認できたのだろうか、と考えるだけで、冷たいはずの雪の景色なのに、熱い情念を感じる。思い出は思い出でしかない、もう実在しない。そんな哀しさを積もった雪は教えてくれた。（藤田千彩）

言語の世界と非言語的世界が、同居する身体。この豊かな身体にこそ、アジア的豊穡がある。

## 愛の旅路の悲喜を感動的に伝える、舞踏的演技術の卓抜。

上海戲劇学院「三生石」

11月12日～13日 タイニイアリス

死んでいく僧 Yuan Zeを演ずる孟小軍が文句なしに素晴らしかった。赤い円錐形の光のなかで天をふりあおき地を輾転反側してこの世に別れを告げていく。魅了されるとは、こういうことを言うのだと思った。その前、無二の親友 Li Yuan こと姜肖園が、行かないで行かないで彼のまわりを廻りながら外へ引っ張り出そうとし、背にしがみつき、足にすかるところも。そのあとの、動かぬ腕に触れたり死後硬直した身体を何とかして生き返らせようと持ち上げ肩にかつき歩かそうしたり、そしてとうとうどうしてもその死を受け入れざるを得なくなって、愛する友の体をいとしくいとしく水で清め、埋葬するところも。言葉は一つもないのにその悲しみがそくそくと伝わってくるのだ。

こういう表現方法を何と言いつたらいいのだろう。踊り、といってもちがう気がするし、身体表現といえはよそよそしい。1970年代にニューヨークとイギリスのカンタベリーで見たことがあるが、プレヒトの理論から派生したと聞くストーリー・シアターの手法にいちばん近いと思った。

ただし、そのストーリー・シアターは異化効果。ストーリーのワンハラグラフをまず語ってからそれを演ずるといった、距離をおいて見る方法かとられていたか、これはその真反対。勝手にスタニスラフスキー・システム的ストーリー・シアターとも名づけようか。生まれも育ちも違い、たくましい筋骨男と女とも見まかうほどの優男と、みかけもまったく異なる二人の男が、道のすれちかひざまに傘が触れたことから知り合いになっていく様子。修行で得た宇宙観と俗界と互いに知らない世界を教えあって知友となっていく様子。同衾して互いに相手の寝姿に見入り、抱きしめたいほどの愛情を感じあう様子。さて旅に出かけた二人が陸路



撮影/青木 司

をとるか水路をとるか舟中の争い、取っ組み合いなど、ただ見ていればストーリーも分かるようになっていたのだ。傘や竿や首に掛ける数珠など持ち道具も少しは使われるが、ほとんどは体表現。説明的な仕草や当てぶりなどまったくなく、動作の一つ一つが状況と心の表現だった。ふと「三岔口」や「秋江」を想った。伝統はみごとに現代に甦生した、と思った。(孟小軍振付) 作の銭玉は、中国人なら誰でも知っているという人は縁、三世転生の伝説を、人はちがうからこそ愛し合

えるのたという視点から採りあげたのたという AFTER TALKの観客から「日中関係も」という声か飛んだ

杭州の西湖に今もある「三生石」の記念碑の石垣をバックにしたシンプルで効果的な装置。そこに唐詩を映し、13年後、優雅に踊りながら愛する Li に会うために出現してくる Ze の影を映し出す手法などもすこく洒落で見事だった。日本の小劇場演劇も頑張らなくちゃ、と思った。(西村博子/タイニイアリス)

## 伝統表現を現代に蘇生させる、強烈で圧倒的な身体。

テアトル・ガラシ

「雨に魅せられた一人の男について」

11月11日、14日 ストアハウス

(フィジカルシアターフェスティバル/11月9日～14日)

今年で第6回となる「フィジカルシアターフェスティバル」。今回は、ホスト劇団であるストアハウスカンパニーをはじめとする日本の3団体に加え、韓国、タイ、インドネシアから劇団が参加した。

中でも圧巻だったのが、インドネシアの TEATER GARASI (同劇団については「Cut In」32号参照) 「雨に魅せられた一人の男について」(作・演出=グナワン・マルヤント)は、2001年の初演後、インドネシア各都市で繰り返し上演され練り上げられてきた舞台だ。女優二人と男優一人のオリジナルキャストに加え、東京上演版では流山児★事務所の横須賀智美(文化庁在外研修で昨年インドネシアに留学)が参加。国際共同制作の色合いも加わった。

この作品は、いくつかの断片で構成されたく身体詩>だ。……ぼつんと置かれた金だらい……雨と戯れる男……静かに狂乱する女……激しく求め合うあまり犬に変容する男女……花に水を遺る女……通底するのは、雨にまつわる記憶

まず驚かされるのは、俳優たちの身体の圧倒的な強度。そしてマーシャルアーツ、ジャワ古典舞踊、日本の舞踏などの要素を、身体の内に取り込み、翻訳・再生した身体表現。それらを介して、昂ぶる感情と濃厚なエロスが、静かな緊張感をみなぎらせ舞台上に浮かびあがる。

この作品には、冒頭の横須賀の日本語による語りを除き、台詞は無い。たか、身体言語としての<コトハ>は極めて豊穡だ。舞台上では無言でありながら、台本には多くの台詞が書かれているという、太田省吾の一連の作品をも思い起こさせる。

割れんばかりの拍手の中、この空間と時間に身を置く幸せをつづく感じ一夜だった。(山下陽子) 「TEATER GARASI」 HP: www.teatergarasi.org

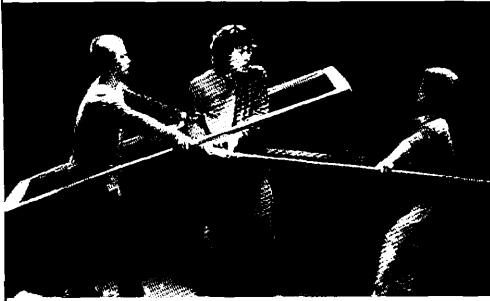
撮影 宮内 勝



CUT IN

# 目が覚めた時に罪悪感を感じるような、 白昼夢の世界に引き込まれた。

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場  
**TINY ALICE** より最新ニュース  
～「ALICE FESTIVAL 2005」の公演から



釜山の若手劇団ドンニョックの公演は、1年間のワークショップを経て構築された作品とあって、実験性に満ちた作品だった。まず、観客の入場時から開演と開

## 釜山演劇製作所ドンニョック「愛、初めてのイメージ夢」



場が同時に行われ、観客一人一人の手を出演者が取って舞台裏から…舞台に吊られた白いフレームを通り客席へと誘導されていく。出演者に手をとられた瞬間から、観客も出演者の一員にされたような感覚を味わい、緊張感が漂った。舞台は、黒の壁にグレーの床とモトーンにシンプルで白いフレームが4つほど吊られているだけ。4人の男女が身体表現と擬音の発声とわずかな日本語を用いて、表現するものは、独占欲や孤独、おせっかい、思い込みなどの感情。それらが夢を見ている時のようにやさしく、ゆったりとした、それでいて目が覚めた時に罪悪感を感じるような雰囲気でも繰り返された。装置としての役割だった4つ

の角張った白いフレームもいつしか天井から離され、それが人物にさまざまな形で襲い掛かる様は、人間関係の複雑な糸に絡まったり欲望に支配されてしまった姿のように胸が痛む。一つ残念に思った事は、10年前くらいの日本の小劇場で流行った実験劇を思い出させるような作品で、懐かしさを感じたが、「韓国」を何も感じさせなかったこと。この国ならではの表現を何か一つでも見る事が出来たなら作品により深みが増したように思う。(アリス子)

11/8日～10日 ◎タイニアリス (アリスフェスティバル2005)

## ALICE FESTIVAL



## 台北の精鋭、Dreamless Theatre が サルトルの翻案を持って再び来日!

Dreamless Theatre 「出口なし/悪戯」

12月20日、12月21日

◎タイニアリス (アリスフェスティバル2005)



「偶然台北の街角で出会ったように、アリスの観客にであえたら」。

11月に続いて再び来日するDreamless Theatre。その主宰、作家、演出家、女優であるJan Chun-

Hueiが、日本公演への思いを語ってくれた。

12月の日本公演は、私一人が出演する一人芝居です。台本はサルトルの「出口なし」の書き換えである「悪戯」を、さらにリライトしたものになります。これは

大胆な挑戦かもしれませんが、今回、少なくとも80%を日本語に書き換えて上演します。私にとって日本語で台本を書く最初の経験。サルトルは「出口なし」において「略奪」をした、と私は思っている。ヒステリー、嬰兒殺し、乱倫、同性愛——と、温度はぐんぐん上がっていく。私も「出口なし」を「乱暴に略奪」しようと思を決めた。「出口なし/悪戯」は、地獄の悪魔の口から語られる愛の真理の物語となるでしょう。私なりの輝きをお目にかけることができれば、と思います。偶然台北の街角で出会ったように、もしタイニアリスであなただけに出会えたらどんなにうれしいことでしょう。ぜひ、ご期待ください。

Jan Dreamless Theatre in Taipei

## 新鋭33組がダンスの明日を競う。 「ダンスが見たい! 新人シリーズ VOL.4」

「ダンスがみたい! 新人シリーズVOL.4」

2006年1月10日～2月1日 @神楽坂die pratze

前売・当日=¥2300(学生=¥1800) 通し券=¥5800(学生=¥4800)

問=03-3235-7990(神楽坂die pratze)

毎年、神楽坂die pratzeでおこなわれる、次世代のダンサーに期待を込めて始めた企画「ダンスがみたい!」<新人シリーズ>は、今回で4回目です。今回も自称新人の多くの応募があり、5人の実行委員が応募映像をすべて手分けして見て評価し、集まってさらに見ながら協議して出場者を選出したもので、33組による競演です。すでに活躍している人やグループの応募も多く、テクニックもあり全体としてレベルが高いものです。今回も、審査員が選ぶ「新人賞」、通し券を買った人が投票する「オーディエンス賞」も選出されます。今回はどんなダンサーが飛び出すか、是非、見比べてみてください。1日3団体の公演です。

- 1/10(火) Aグループ.....
- 高見知英美 ●若尾伊佐子 ●大西小夜子
- 1/11(水) Bグループ.....
- 中村公美 ●りな・りっち ●ねねむ
- 1/12(木) Cグループ.....
- 富沢房江 ●幸内未帆 ●0九(ゼロキユウ)
- 1/14(土) Dグループ.....
- 和~yori~ ●KeM-kemunimaku-Project
- KAPPA-TE
- 1/15(日) Eグループ.....

- 酒井幸菜 ●お宝。 ●根岸由季
- 1/16(月) Fグループ.....
- 妄人文明 ●横山愛 ●gera?
- 1/27(金) Gグループ.....
- 箱入りオブラート ●荒木志水 ●安次嶺菜緒
- 1/28(土) Hグループ.....
- 林祐司 ●滝本あきと ●深見章代
- 1/29(日) Iグループ.....
- ノシロナオコ ●東京フラヌール
- roco・motion project
- 1/31(日) Jグループ.....
- 10<sup>80</sup> ●maguna-tech ●古館奈津子
- 2/1(水) Kグループ.....
- 滝田高之(スピロ平太) ●ジュールモンデンキント ●ピンク「子羊たちの遊覧船」

### JOIN IN THE PICNIC

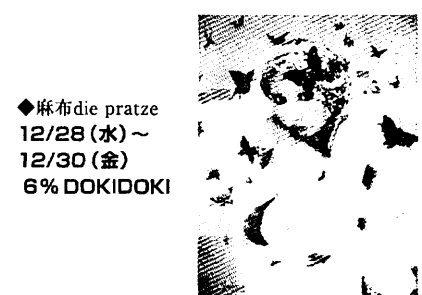
期待の公演情報

◆神楽坂die pratze  
12/22(木)～12/25(日)  
genre: Gray 利己的物体と専制的肉体による  
グロテスク ake-miya  
「メロラピリア=ある鳥に関する記憶=」

## 新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場 DIE PRATZE より最新ニュース

問=03-3415-9653

◎髪の毛の巢の部屋で、女は鳥であった頃を想いながら、髪を梳き時間を編む。産んだばかりの白い卵は、老女の手の中で化石となり、ドレスに孵化する時を食む。



◆麻布die pratze  
12/28(水)～  
12/30(金)  
6% DOKIDOKI

「6% DOKIDOKI ヴィジュアルショー「フェアリーテイル」」  
問=03-3479-6116 (6% DOKIDOKI)  
◎6% DOKIDOKIが放つ初のヴィジュアルショー!  
「不思議な国のアリス」をモチーフに、独自の解釈を加えたちょっぴり毒のあるショーを展開。これは演劇? ファッションショー?

